

## 足利市経済活性化諮問会議で考える

—グローバルな視野をもつ人材を地域が戦略的に育成することが活性化のカギ—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

8月28日・火曜日に「足利市経済活性化諮問会議」というところから、足利市長の大豆生田実市長さんに提言書を提出しました。実は、私がその「足利市経済活性化諮問会議」の会長を仰せつかっており、去年の9月から今年の8月まで延べ40回にわたって色々な会合を開き、25人の委員の皆様と一緒に、どうしたら足利市の経済が活性化することができるのかを議論させていただき、230項目の提言としてまとめ上げました。これは足利市だけではなく、おそらく栃木県内、また、全国のすべての市や町にもあてはまるようなことがたくさん含まれていると思いますので、今日はその御紹介をさせていただきます。

2. 提言は、「まちづくり分野」、「もの・ことづくり分野」、「教育改革分野」、「医療・介護・福祉分野」の4つの分野に分けてまとめさせていただきました。20年にも及ぶデフレ長期不況、リーマンショック、今はギリシャやスペインのことが話題になっていますが、アイスランドはじめ世界的なヨーロッパの経済危機、超円高、国と地方の債務が非常に膨大になって返せない状況、超少子化、超高齢化、中国やタイをはじめとする新興諸国の台頭、それらに加えて去年の3月11日の東日本大震災、大津波、福島第一原発の事故による放射能汚染と電力不足、さらには政情不安、政権が非常に不安定ですので、このように数え上げれば10本の指でも足りないほどの試練とも言われる困難が日本を覆い、その影響をこの足利市も大きく受けています。また、放送をお聴きの皆様の市や町でも受けていると思います。そのような状況の下で、どのように経済の活性化を図ることが必要かということを1年間議論させていただきました。国会議員の先生をはじめ、色々な有識者の方にヒアリングをしたり、「このような素晴らしいことをやっているのなら見に行こう」と現地視察をしたりしました。例えば、隣の太田市には群馬国際アカデミーという英語で大方の科目を教える小学校・中学校・高校がありますので、見に行かせていただきました。また、ワーキンググループと称して、「まちづくり分野」、「もの・ことづくり分野」、「教育改革分野」、「医療・介護・福祉分野」に分かれてディスカッションをしたり、子育て中の方でフォーカスグループという意見を言って下さる方々からヒアリングをしたりしました。このようなかたちで精力的に調査研究や意見の集約、提言の策定をしてきました。そして、1か月に1回3時間の全員での議論があり、足利市長の大豆生田さんや市の部長さん・課長さんなど毎回十数名の方がいらっしゃってお話を聞いていただきました。

3. 内外の困難な状況を足利市でも直接受けるわけですが、経済の活性化にとっては企業経営者が一番大事だと思います。企業経営においては「自己責任（自分のことは自分で責任を取る）」、「自助努力（自分の身は自分で守る努力をする・助ける努力をする）」、「自分の未来は自分で切り開く」、「切磋琢磨する」、「昨日のように今日があって、今日のように明日があると考えたら明後日（あさって）はないと考える」、このように考えることが大事です。言いにくい話ですが、企業というのは原則倒産である、それくらい厳しく自分自身を考えて企業の経営にあたらなければいけないと思います。そうすることによって、厳しい市場社会の中で何が何でも生き伸びて活性化を図り、その結果、企業が地元で雇用を生み、利益を出して税金を払い、その税金を配分して市民の生活の向上に役立てるということが大事かと思えます。そのような観点から色々な議論をさせていただきました。
4. 日本は超少子化社会ですので、放っておいたら人口がどんどん減っていきます。人口を増やすには、特に若い人を増やすには仕事があれば増えません。仕事をつくるのは企業経営者の責任です。ですから、企業経営者は自分自身のことや会社のことも大事ですが、この企業を存続させ、発展させることがこの街を人口減から守るのだ、また、街の人口を増やすことに繋がるのだ、利益を出すことによって税金を納税することができて、その税金で市や町を活気づけることができるのだ、そのような使命感を持ってやっていただけないとどんどん街が縮小してしまいます。このように、足利市を持続可能な都市にするにはどうしたらよいかという観点から議論を取りまとめました。市の活性化のためには、すぐにでも実行可能なものもありますし、今後の十分な議論も期待されるものもたくさん含まれていると思います。
5. これから先で一番大事なのは、世界や日本、栃木県、足利市を支え、経済を支えるグローバルな視野を持ち自分自身を自分で律することができる自律的な人材です。そのような広い視野をもった自律的な人材を、地域が戦略を持って育成することが大事だと感じました。このほかにも数多くの政策がありますが、足利市民の皆様の理解と協力を得ながら、市長さんの強力なリーダーシップで実行できるものからどんどん実行していただきたいとお願いしました。
6. このようなかたちで「足利市経済活性化諮問会議」は1年間の活動を終えることができました。今後は、「足利経済フォーラム」という組織を少しずつ立ち上げて、今回の提言のフォローアップや、私もできることは協力して自分たちでできることは自分たちでやろうと思っていますので、ぜひ御関心を持っていただければと思います。
7. 以上のような動きが足利市でありましたので、ぜひ皆様の街でも経済活性化をどのようにするのかを皆様自身で考えていただければと思います。

— 2013年2月23日追記・改訂 林明夫 —